あおもり民医連

2019年11月15日発行 第284号

【8面オールカラー】発行部数2,866部

発行元／青森県民主医療機関連合会
所在地／〒030-0822 青森市中央三丁目10番2号
TEL. 017（723）4076　FAX. 017（773）5326
URL http://aomin.jp/　e-mail info@aomin.jp

2019年度

原発核燃問題を考える大学習会

講師 城南信用金庫 顧問
吉原毅 氏

九月十八日に浪岡中央公民館にて二〇一九年度原発核燃問題を考える大学習会が行われ、オープン参加で百二十四名が参加しました。講師には吉原毅氏を招き「財界人から見る国際的脱原発の流れと再生可能エネルギーの活用と国家戦略」についてお話いただきました。

吉原氏は東京都を中心に展開している城南信用金庫の顧問です。同信金は福島第一原発事故を機に脱原発を宣言しています。また、小泉純一郎元首相を顧問とする「原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟（原自連）」の会長も務めています。講演では、太陽光を中心とした再生可能エネルギーのコストが下がり「日本は再生可能エネルギー大国になれる可能性を秘めている」と強調し、「地域の人が地域のお金で事業を起こす、かつての協同組合の発想が発展の起爆剤になる」と述べていました。福島の原発事故を振り返り、「いまだに日本は原発を諦めきれない。『今だけ、カネだけ、自分だけ』という精神病論が根付き、関係者は原発の危険性や莫大なコストには目をつぶっている」と批判していました。

講演を聞いた後のアンケートでは「人の力では制御できない原発は今すぐ撤退すべき」「経済学から歴史、政治に至るまで多岐にわたる内容であり教養溢れる語りは大変勉強になった」「津波から原発を守ることは必要であるとは思っていたが、建屋そのものが地震に弱いのであれば、地震大国の日本ではあまりにリスクが高い。再生可能エネルギーの可能性を教えてもらえた」など好評でありました。

なぜ人はカネ儲けに走るようになったのか、その歴史から始まり原発マネーがはびこるようになった経済学を学び、現在の政治につながる流れでお話いただきました。点だけの視点ではなく、点と点がつながった線・面での視点を持つことでさらに知識が深まることを実感できた学習会でした。（ファルマ弘前薬局／西沢　光）

挨拶される田代県連会長

～参加者感想をご紹介～

（原文のまま）

▼吉原さんのお話をお聞きして、原発問題のお話でしたが、元気をいただけたと感じます。日本には、原発はいらないと思っていますが、安倍総理のままだと何も変わらないと思っています。しかし、自然エネルギーの普及がすすみ、地方の若者が少なくなった場所でも明るい未来を想像することができました。大衆に埋もれず、自分の気持ちをしっかりと持ち続けることが大切だと思います。

▼経済学から歴史、政治に至るまで多岐にわたる内容であり、教養あふれる語り口で大変勉強になりました。脱原発を世論に訴えるのは再生エネルギーの活用が一番説得力があると改めて感じました。

▼原発が地震に弱いということがすごく分かりやすかったです。また、自然エネルギーについても、農業を利用しての発電など更に原発なしでも、日本のエネルギーは困らないことに確信がもてました。人の力が制御できない原発からは今すぐ撤廃すべきです。

▼とてもワクワクするお話でした。原発はダメだと多くの人が思っているが、どうすれば良いかわからない人が多いのではないか？しかし、吉原さんのお話は、これが実現すれば、日本の未来が明るいものだと本気で感じました。参加してよかったです、ありがとうございました。

県連社保平和委員会

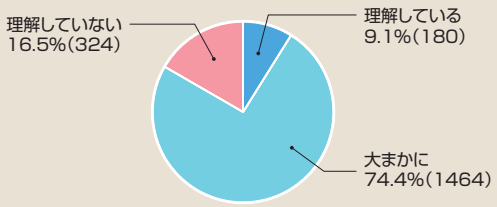
日本国憲法に関するアンケート結果の概要について

7月21日の参議院選挙を終えて、当委員会は青森県民医連で働く全職員2,582人対象に、日本国憲法の改憲問題についてどのような問題意識を持っているのかを聞き、民医連運動における今後の課題と展望を検討することを目的に「日本国憲法に関するアンケート」を実施し、1,984人（76.8%）から回答いただきました。

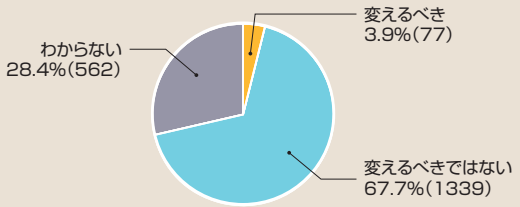
投票状況

	職員数（A）	回答数（B）	回答率	投票者（C）	投票率①（C/B）	投票率②（C/A）	全国投票率	青森投票率
2014衆	2379	1454	61.1%	1054	72.5%	44.3%	53.7%	49.6%
2016参	2432	1350	55.5%	1100	81.5%	45.2%	54.7%	57.2%
2019参	2582	1984	76.8%	1439	72.5%	55.7%	48.8%	45.9%

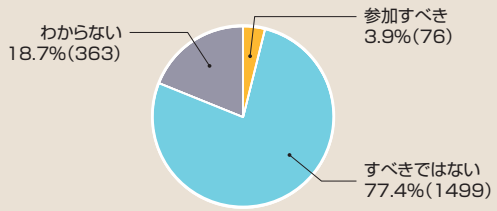
1 あなたは日本国憲法の内容を自分なりに理解していますか?



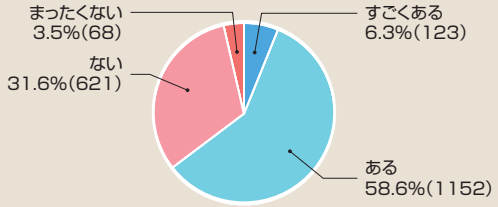
2 あなたは憲法9条を変えるべきだと思いますか?



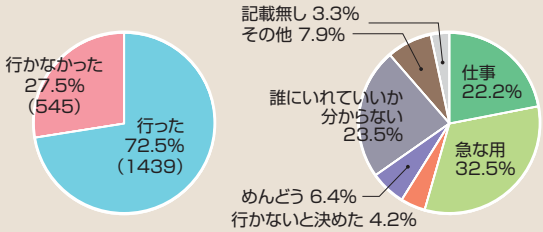
3 あなたは自衛隊が海外で戦争に参加することについてどう思いますか?



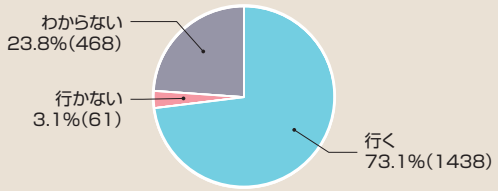
4 あなたは政治に関心がありますか?



5 あなたは、今回の参議院選挙に行きましたか?（行かなかった理由）



6 あなたは改憲が発議された場合、国民投票に行きますか?



集計結果より、「選挙に行きましたか」の問いについて、「行った」1,439人（72.5%）、「行かなかった」545人（27.5%）。「行かなかった」理由のうち、128人（23.5%）が「誰に入れていいかわからない」と答えています。

「9条を変えるべきだと思いますか」の問いについて、「変えるべきでない」1,339人（67.7%）、「変えるべき」77人（3.9%）、「わからない」が562人（28.4%）でした。

「改憲が発議された場合、国民投票に行きますか」の問いについて、「行く」1,438人（73.1%）、「行かない」61人（3.1%）、「わからない」が468人（23.8%）でした。これら集計結果より、7割程度の職員が、今の政治に対してなにかしら問題意識を持っていることが伺えます。

一方、誰に入れていいか、9条を変えるべきか、改憲が発議された場合、国民投票に行くか「わからない」と少なくない職員が答えています。まず、この「わからない」にいかに寄り添うかが大切です。各職場で民医連新聞など活用しながら、特に若手職員との「政治に無関心であっても、無関係ではいられない」語らいを呼びかけます。3000万人署名も、安倍首相が改憲をあきらめるまで取り組みましょう。

11月9日、「9条を守り、25条で生きる」街宣活動は15周年を迎えました。ピースアピールも続いています。私たちは「いのちの平等」を掲げ、命と健康を破壊する一切の戦争政策に反対し続けます。

（県連社保平和委員会　委員長／柳谷　円）

憲法・いのち・社会保障を守る10.17集会

厚生労働省に向かって「社会保障費ふやせ！格差と貧困をなくせ！」とシュプレヒコール！

10月17日、全国から2500人以上が日比谷公園に集まり、いのちを守る集会が行われた。青森からは12人が参加。

雨の中の集会となりました

ゲストの室井佑月さんは、トーク番組のような明るさで、権力を私物化している安倍政権に絶対に憲法を変えさせてはいけないとハッキリと話した。また、今憲法を守り抜くことは、将来歴史の教科書に載るような面白いことに参加しているという気持ちで、政治や選挙に興味のない人達も巻き込んでいきたいと語った。その後のリレートークでは、安倍政権が市場最大規模の軍事費で武器を爆買いしていること、増税された消費税は社会保障費にはならず、高齢者医療費の２割負担や、介護保険の２割負担が議論になっていること、障がい福祉の現場に市場原理が導入され、権利としての社会保障が揺らいでいること等々が語られた。集会の後は、隣の厚生労働省に向かってシュプレヒコールをし、サウンドデモ（ノリノリの音楽に合わせてのデモ）で、東京駅に向かってパレード。銀座で「軍事費減らして医療を守れ！」、東京電力本社前で「原発いらない！」とコールするなど、この集会でなければできない体験をすることができた。あいにくの雨だったが楽しく参加することができ、憲法、社会保障を守る連帯の力強さを感じることができた。　（地域生活支援センターぴあす／三浦暢子）

２０１９年北海道東北地協

薬学生夏のつどいin青森

ハンセン病の歴史から学ぶ ～人権と差別～

9月28日（土）～29日（日）、北海道・東北地協　薬学生夏のつどいが青森市内で開催され、薬学生・職員合わせて35名（内、青森県連薬学生4名）が参加。

松丘保養園の納骨堂に献花しました

国立療養所　松丘保養園では、入所されている自治会副会長さんからハンセン病やご自身の生立ちについて講演いただき、施設見学を行いました。講演では、ハンセン病であることで中学への進学を拒否され、保養園へ入所の際には偽名を名乗ることを強制される等、生々しい話を伺うことが出来ました。特に印象深かったのは「憲法よりらい予防法が優先される、健常者しか生きられない世界」と副会長さんが語られたことでした。その後会場を浅虫へ移し、中央あけぼの薬局藤田薬局長より青森市内で行われている薬局での無料低額診療事業の調剤処方費助成を勝ち取るまでについて語られました。

翌日のＳＧＤでは、ハンセン病について学んだことと、同じような差別を繰り返さない為に私たちにできる事について話し合いました。学生からは、誤った知識や偏見・差別を覆すことの難しさや正しい情報を伝えていくことの大切さ、国や政府が率先して偏見や差別をなくす取組みをする為に自分たちが選挙に行き、政治に参加することの重要性などの意見が出されました。

参加した学生・職員双方にとって充実したつどいとなりました。
（あけぼの薬局八戸店／岩本るり子）

最後に「感想を一言」書いて記念撮影！

第３回　青森民医連介護福祉士研修交流会開催！

「介護のすばらしさ、その魅力」

講師　医療法人神戸健康共和会
ケアプランセンター東神戸 所長 村上美央氏

十月六日浪岡公民館で「介護の素晴らしさ　その魅力　～目標を持って働くことの大切さ～」をテーマに講師として医療法人神戸健康共和会　ケアプランセンター東神戸　所長　村上美央氏をお招きし、第三回目となる介護福祉士研修交流会を開催しました。

全体で五十一名の参加があり、午前中は活動報告から講師には小規模多機能での事例を通し介護職の魅力、専門性について講義をして頂きました。利用者を主体とし、課題解決のケアのため職員みんなで話あい、近隣住民の理解・介護の魅力に関して学ぶことができました。

グループワークの様子

介護職は他の人生に関われる仕事でケース一つ一つが仕事だけでなく人生の学びとなること、個では解決できない課題でも他職種を巻き込みチームで考えながら、より広い視点で一つの課題を解決していくことの奥深さに魅力を感じ、介護職の特性を再確認できました。
（県連介護福祉士委員会　健生病院／工藤眞大）

三沢・八戸フィールドワーク

秋晴れの日差しの差し込む中、九月七日(土)から八日(日)と今年で五回目となる三沢八戸フィールドワークが行われ、十五名の参加。

八戸へ向かうバスの中参加者全員でゲームを行いました。昼食後、八戸医療生協に到着、戦争体験者の笹垣さんの計らいでバスの中で当時の様子を聞きながら最初の目的地『八戸要塞』に向かいました。十分ほど林の中を登っていくと、そこには防空壕やトーチカの跡がありました。当時学徒動員として冬でも女学生が作っていたと聞き、学校でも習わない事実に歴史を知る事の大切さを実感しました。

次に南郷歴史民俗資料館を、学芸員の方の説明を聞きながら見学しました。日米開戦前に日本に送られてきたセルロイド人形のメリーちゃんは全国で百体以上あったそうですが、開戦後は、竹やりの的となるなど破壊され、残っているのは心ある方が隠しておいた物で、資料館にも一体飾られていました。また出征の時の旗やのぼりや武運長久を祈る千人針、召集令状（通称赤紙）なども展示されて、当時の様子を学ぶ事が出来ました。

見学後八戸医療生協本部に戻り振り返りを行い、夜は交流会を開きました。普段他職種と交流のない若者が、お互いの仕事を知り、楽しい時間を過ごしました。

二日目の朝、ピースメイト委員と参加者でおにぎりと豚汁を作って食べ、三沢航空祭の見学に出発しました。三沢市指定の停車スペースにバスを止め、基地ゲートのセキュリティチェックを終え、飛行場までは徒歩で向かいました。決して広くない三沢市の中に、こんな広大な敷地があるのがまず驚きでした。戦闘機の飛行ショーなども見ると格好いいですが、物凄い爆音で、このような爆音を毎日聞かされている市民は大変だろうなと思います。

参加者の感想文は、今回の取り組みをしっかりと受け止めてくれているのが印象的でした。ピースメイト委員会では、これらのことを次につなげる為に、何をするべきか考えています。（青森民医連／八木澤　寛）

トーチカへ向かう参加者たち

南郷歴史民俗資料館にて

三沢航空祭を見学しました

第20回 薬害根絶デー

薬害の根絶と迅速な救済を訴える

8月23日、第20回薬害根絶デーが開催され、厚生労働省前で薬害根絶を訴えるリレートークと誓いの碑の前で要望書を交付する「碑の前行動」が行われました。22日には前夜集会が行われました。

1999年に薬害根絶「誓いの碑」が建立された年から始まった薬害根絶デーは今年で20回目を迎えました。

22日の前夜集会は全電通会館で行われました。全国から薬害訴訟原告団、薬害根絶デー実行委員会の学生ボランティア、一般参加者など総勢183名が参加しました。東京HIV訴訟弁護事務局長・薬害肝炎全国弁護団代表の鈴木利廣弁護士による基調講演「薬害訴訟支援運動について～薬害エイズ、薬害肝炎の経験から～」の他、「誓いの碑」が建立されるまでの歩みと意義、学生ボランティアの活動報告、ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチン薬害訴訟原告からの訴えなどを聴きました。

23日は全国薬害被害者団体連絡協議会と文部科学省の協議の後、厚生労働省前でリレートーク、「誓いの碑」の前で碑の前行動が行われました。小雨の降る中、多くの参加者が「STOP ！薬害」のプラカードを掲げ、薬害の根絶と救済、二度と繰り返さないでほしいという訴えを見守りました。

薬害根絶デーが始まってから20年という節目の年ですが、HPVワクチンの被害など薬害は根絶されていません。被害者の方の「正しい情報を正しい方法で伝えてほしい」という願いを強く感じる二日間でした。（ファルマ弘前薬局／神　千穂美）

小雨の中碑の前行動

2019年度

青森県民医連初期・入職一年目研修

～民医連職員として大切にしていきたいものは何？～

九月二十日～二十一日浅虫温泉秋田屋にて、初期・入職一年目研修を開催し、新入職員四十三名が参加。

グループワークでは、自分の経験や学んだこと、自分の考えを伝え、『民医連職員として今後大切にすべきもの』を模造紙にまとめました。同じキーワードでも人それぞれ選択理由が違ったり、一方違うキーワードでも選択理由が同じだったりと、自分以外の考えを知ることができました。

様々な文具を使ってカラフルに仕上げました！

次に、ピースメイトやジャンボリー委員の先輩より平和運動の大切さや仲間づくりの楽しさを学び、夕食時にゲームで交流を深めました。

二日目は、民医連綱領と自分たちの活動の講義を受け、初日のグループワークで作成した模造紙にこれからやりたいことや大切にしたいことを加え、発表を行いました。地球や青森県の形に津軽、青森、八戸の病院・診療所まで書かれており、工夫を凝らした作品ばかりでした。

完成した作品前で記念撮影！

参加者より、「複数の意見をまとめるのは大変だったが、図式化し、担当を決め、皆で取り組めて良かったし、楽しかった。」「青森に空襲があったことを初めて知りました。」「もっと民医連について何度でも学ぶことは大切であると考えるいい機会になりました。」などの感想があり、実り多い研修となりました。

（青森民医連／成田美奈子）

2019年度

医系合同奨学生会議 開催

九月二十一日（土）協立クリニックにて医系合同奨学生会議を開催し、医学生二名、薬学生三名、看護生七名の青森民医連奨学生と職員八名が参加。

あおもり協立病院地域連携室　内藤彩子さんより、無料低額診療について講義していただきました。無料低額診療事業の基礎知識や対象者、手続きの流れ、実際に内藤さんがチームで関わった困難事例の取り組みなど、とてもわかりやすく教えていただきました。

アイスブレイクの様子

また、医学生担当の立花典明さんから、（一社）あおもり健康企画が、青森市で初めて保険調剤薬局での無料低額診療事業を実施するまでの流れについてお話していただき、「このような制度を行うかどうかは、選挙での一票が大きく影響します。ぜひ皆さん選挙に行ってください。」と、学生へ選挙の大切さも同時に教えてくださいました。

その後のグループディスカッションでは、参加者全員が積極的に自分の意見を交換することができ、知る・学ぶ・考える、更に行政の在り方にも疑問をもつことができた医系合同奨学生会議となりました。

（青森民医連／山口理香子）

参加者全員で記念撮影！

第27回　青森保健生活協同組合

健康まつり

開　催　!!

９月29日(日)協立クリニック駐車場にて第27回健康まつりを開催しました。

過去最高の約４５００人の来場。参加協力券も前回を上回る売り上げでした。今回はプログラムが充実し、たくさんの方が健康まつりを最初から最後まで楽しんでいました。

オープニングのワーカー太鼓（青森太鼓組）の太鼓演奏でまつりがスタート！前回好評だった青森山田中学高等学校吹奏楽の演奏は、会場の隅々に素晴らしい音楽が響き渡り、来場者を魅了していました。

BLUE TOKYOの
パフォーマンス

次に、今千里さんの歌謡ショー。「パプリカ」の歌では出演を控えていたＢＬＵＥ ＴＯＫＹＯの皆さんも参加し、会場は盛り上がりました。最後はＢＬＵＥ ＴＯＫＹＯのパフォーマンス。アクロバット演技は満員の来場者だけではなく、最寄りのお店に買い物に来た地域の方を会場内へ引き寄せるほど魅了する演技でした。

組合員ＰＲでは成田慶子実行委員長と赤レンジャーが加入・増資の訴えをして、新規加入７名、増資３件の成果となりました。時々強い秋風が吹きましたが、たくさんの方にご来場いただき『元気と笑顔が地域に広がる』健康まつりとなりました。

（青森保健生活協同組合　組織部／福士　学）

今千里さんの歌で踊る組合員の皆さん

(一社)あおもり健康企画　民医連綱領中間学習会を開催

九月十三日大野あけぼの薬局にて民医連綱領中間学習会を開催しました。

青森県民医連事務局長を務めたこともある荒岡英孔氏（八戸生協理事）より、「なんのための、誰のための民医連綱領なのか」について講演して頂きました。パンフレットの解説だけではなく、自らの体験に基づき、綱領に対する熱い想いを語って頂きました。読了するだけでは伝わらない民医連魂を受け継ぐ貴重な学習会となりました。

（あおもり健康企画　総務部長／成田卓弥）

参加者からの感想を紹介します。

（感想用紙より一部抜粋）

- 荒岡さんの体験談を聞けて良かった。言葉や内容に重みがあり大変わかりやすく響いてきた。改めて綱領のすばらしさを実感した。
- 健康保険の負担割合が増えていったのが本当に改悪だと思った。さらに国民の負担にならないように改悪に反対していきたいと思った。
- 「自分の立場だったらどうなのかで考える習慣」この習慣を大事にしたいと思いました。きっと運動や学習、仕事に対する姿勢が変わると思います。民医連の強さは全国に同じ思いを持った人がいて助け合えること。すごいと思いました。
- 「自分のこととして捉え、考える力を身につける」という言葉がとても印象に残っています。新聞を読んだり、患者さんの話を聞いたり、日々勉強しないといけないな、と思います。
- 今後業務の中で、患者さんの話から困っていることを拾い上げ、解決するために何ができるのかを考えながら日々働いていきたい。

人と人とがふれあい、笑顔あふれる安心･安全な暮らしの場

日中サービス支援型共同生活事業所「花の郷」開設

社会福祉法人・花では、主に精神に障がいを持たれている方々を中心に事業を展開していますが、法人開設２０周年を迎え、県内初となる日中サービス支援型のグループホームを７月１日に開設するに至りました。グループホームの対象者は、主に高齢者や重度の障がいを持たれている方々を対象に３６５日、２４時間体制で安心・安全な暮らしの場を提供すること、また、各市町村との連携を図ることで短期入所も併設しております。

青森県内を見ても、精神に障がいを持たれている方々のグループホームは充足されておらず、更に高齢者や重度の障がい者の方々は、介護保険制度との狭間に立ち暮らしの場所が限られてくる為、そういった方々を対象に手厚いサービスを確保して行きたいと考えております。

開設に至るまで、様々な関係機関と連携を図りながら、膨大な時間と構想を練って参りました。今までご尽力を頂いてきました、全ての皆様に感謝し、今後の福祉の発展の為に邁進していく所存でございます。

（社会福祉法人 花／鈴木哲也）

まちから村からの連帯で一人ぼっちの高齢者をなくそう

2019年度 第21回 青森県高齢者大会

～憲法が輝く平和な未来と青森県を～

10月10日(木)リンクステーションホール青森にて第21回青森県高齢者大会を開催し、平日開催にもかかわらず県内各地から312人が参加しました。

講演される本田 宏 氏

本大会は毎年秋の休日に開催をしていますが、今年は平日しか会場がとれませんでした。開会前のオープニングセレモニーには、中泊町に百年以上に渡って相伝された津軽伝統人形劇「金多豆蔵（キンタマメジョ）」を呼びました。全て津軽弁による人形劇でしたが、会場からは多くの笑い声が聞こえていました。

午前の記念講演は、医師でＮＰＯ法人医療制度研究会副理事長の本田宏先生を招き「どんどん悪化する年金・社会保障　そのルーツ明治維新を振り返る」と題しお話を頂きました。本田先生は弘前大学医学部卒業と言う事もあり、参加者は親近感を持ちながら医師不足含めた日本の医療制度の現状、年金・社会保障・政治などについて、講師のジョークに笑いながら楽しく学習が出来ました。午後の部は、学習講座として「終活」、分科会「しゃべり場（井戸端風会議）」、専門家による「なんでも相談会」を企画し、参加者はそれぞれ興味ある企画に参加しました。

会場は参加者で満員となりました

高齢者大会は、自分たちの要求だけではなく国民的な要求運動を取り上げ、「学び」「実践を交流」する場として発展しています。参加者は毎年、楽しみにしています。

（津軽保健生活協同組合　組織部／八島将仁）

青森保健生活協同組合

前期社保学校開催

青森保健生協社保平和委員会主催による前期社保学校が10月19日にあおもり協立病院で開催され、18名が参加しました。

「社会保障をめぐる情勢と私たちの課題」について組織部員が講演。「時給千五百円になったら何に使う」というＳＮＳアンケートで「病院（歯科を含む）にかかる」が多かったことを紹介し、青森県の最低賃金はこの半分程度であることを指摘しました。さらに、国が進めようとしている医療・介護保険制度の改悪の内容にも触れ、地域の中に病院にかかれないなどの困難が広がっているとしました。

また、これまでの私たちの運動では差額ベッド料をとらないこと、無料低額診療のとりくみを進めてきたことを紹介しました。そしてこれからは診療の場や地域でも「貧困に介入」していくことが重要であり、職員も生協組合員も困難な人に寄り添い、困難な人の声をアドボケイト（代弁者）として発信していくことを呼びかけました。

（青森保健生活協同組合　組織部／那須　稔）

連載　事務幹部学校 参加報告

過去の教訓から学ぶということ

八月二十八日から三日間、宮城県松島町にて第四十三期北海道・東北地協事務幹部学校第二クールが開催され、地協内から十九名が参加しました。名だたる講師陣から五つの講座が行われました。

第二クールでは「民医連経営の現状と課題」（塩塚啓史氏）、「山梨勤医協の倒産・再建を通じて学んだ民医連の存在意義」（樋口武仁氏）、「民医連運動と事務幹部論」（長瀬文雄氏）、「未来に向かって民医連の医師と医師集団は何を大切にするのか」（山田秀樹氏）、「民医連の管理運営・組織づくり」（八田英之氏）と、民医連経営に必要な視点や民医連の管理運営・組織づくりについて学びディスカッションしました。

今から三十六年前の一九八三年に倒産した山梨勤医協の当時の事務長より、状況や背景、事務長の心境や職員の様子など生々しく教えていただき、過去の教訓から民医連の存在意義を学びました。民医連が誕生してから現在まで、時代背景は変わってもブレないこころざしと活動が地域の信頼を生むこと、地域にとって必要不可欠な存在であり続けることの素晴らしさと経営と民主的管理運営の重要性、また、困難に直面した時のあるべき姿を考えさせられました。幹部学校で学んだことを糧にして、今後の民医連を担う一員として綱領・理念の実践を積み重ね精進してまいります。（大野あけぼの薬局／対馬利穂）

あおもり民医連 284号 発行日 2019.11.15 発行部数 2,866 枚 AOMORI MIN-IREN

私の三つ星★★★

お店特集!!

オススメ 郷土割烹かわばた

金木産馬刺し三種盛り

新町通り村上新町病院の裏通りにあるお店です。料理は何を頼んでも美味しいものばかりですが、特におすすめの料理は、金木産馬刺三種盛です。特にゴマ油を使った馬レバーは、くせがなくやみつきになる味です。

お酒も日本酒、焼酎、ウィスキー、ワインと品揃えも豊富で、店内の壁にずらりと並べられており、お店で使用しているグラスもバカラや切子などグラスも楽しめるお店です。

特にバーカウンターのようなカウンター席がおすすめで、店主も気さくな方なので、一人でも楽しめるお店です。（青森民医連／秋山和範）

お刺身盛り合わせ

オススメ ポムミエル

浪岡にある「ベーグル」のお店ポムミエル。

ポムミエルでは、ベーグルを中心に、スイーツ、コーヒーなどの販売をしています。

お店は洋風な建物で、白・ベージュ・茶色を基調とした店内には薪ストーブが置かれ、温かく優しい温もりがある雰囲気です。

テーブル席もあり、購入したベーグルやコーヒーをその場でゆっくり味わっていただくことも出来ます。

休みの日など、ゆっくり起きてポムミエルで遅めの朝食などどうでしょうか？

（ヘルパーステーションさくら／三津谷綾香）

機関紙
編集部まで
info@aomin.jp
投稿募集!!

職員の皆さんの
オススメする本・映画
音楽・スポーツ・趣味
なんでも紹介して
いきたいと思います。

あなたと民医連をつなぐ月刊誌
いつでも元気 MIN-IREN
2019 11月号 380円 好評発売中

けんこう教室 慢性のせき
台風被害の現場から 千葉
映画 誰がために憲法はある
介護福祉士のやりがい 福岡
始めよう健康吹き矢 東京
食と健康 減塩で防ぐ高血圧

発行＝㈱保健医療研究所 〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-4 平和と労働センター8階 電話 03(5842)5656(代表) FAX 03(5842)5657

11月 2019年11月 第19回理事会報告

- >> 全日本民医連 第43期第21回理事会報告
- >> 決議事項
  - 2019年度薬剤師1年目研修開催要項
  - アフタージャンボリー参加者業務保障のお願い
- >> 会務報告/各委員会・医師委員会報告
  - 全日本・地協各部門会議・研修
  - 医師委員会報告/既卒医師対策報告
- >> 協議事項
  - 民医連の綱領と歴史を学ぶ大運動
  - 「憲法９条を守る憲法闘争」推進本部まとめ
  - 2020年NPT＆世界大会ニューヨーク日本原水協代表団派遣

主な 今後のSCHEDULE

- 11/30 アフタージャンボリー
- 12/7 第２回県連放射線部会
- 12/14 県連薬剤師一年目研修
- 12/20 県連社保大学習会